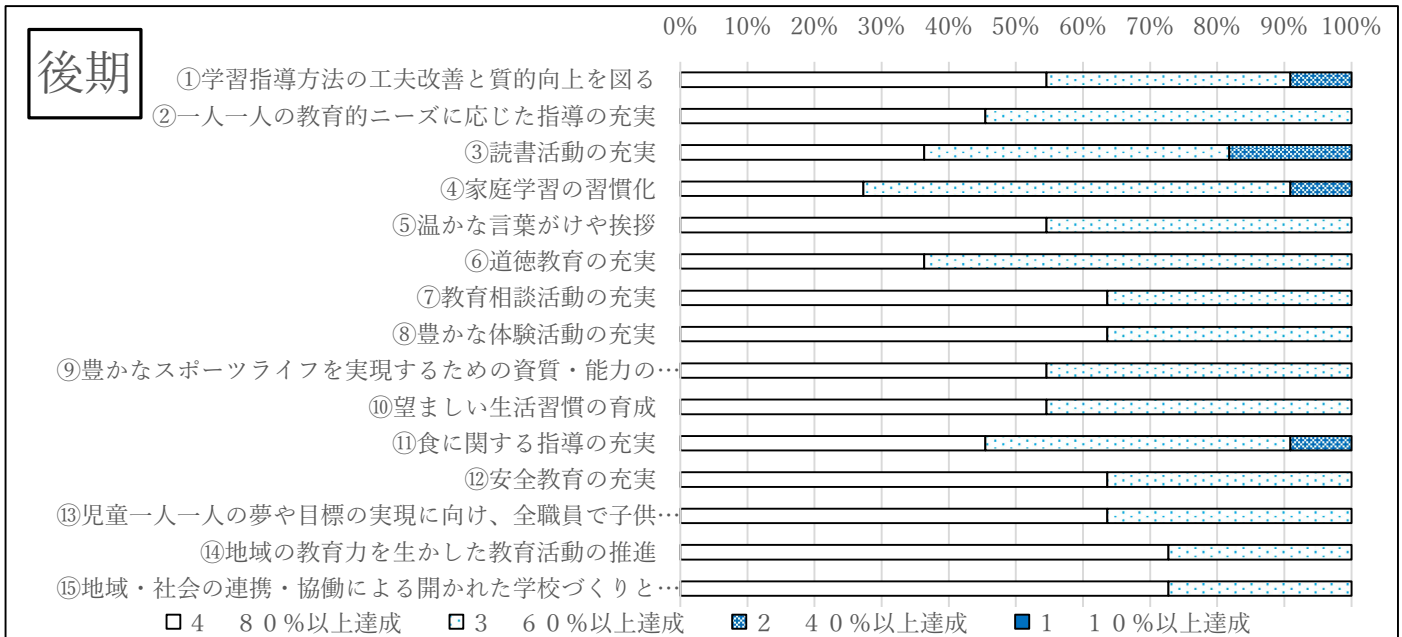


自己評価アンケート結果について（教職員）

いすみ市立古沢小学校



- ・「①学習指導方法の工夫改善と質的向上を図る」については、前期に比べ10%向上し、「②一人一人の教育的ニーズに応じた指導の工夫」については、前期に比べ20%向上している。改善された理由としては教師一人一人のニーズに応じた研修を行い、自身のスキルアップにつながったことが要因考える。

また、指導主事を招いて校内研修を行った際に、授業でのICTの活用が課題として挙げられた。ICTについては、教員一人一人にスキルの差があることは否めない。しかし、研究主題である「主体的に学ぶ古沢っ子の育成」において、ICTを利用して全員の意見を一齐に見られる工夫を共有できたことが、大きな成果と考える。

- ・「③読書活動の充実」については、約80%が肯定的な評価をしている。校内では、地域の読み語りボランティアをはじめ、読んだ本の紹介をする「読書紹介カード」、図書委員会が企画運営し、クリスマス朗読会を実施するなど、本に親しむきっかけづくりを積極的に行った。80%近い児童は、肯定的な評価をしているが、保護者は、約半分ほどしか肯定的な評価をしていない。理由としては、インターネットの普及により、家庭での過ごし方が多様化し、家庭で本を読まなくなったことが原因の一つと考えられる。来年度以降は、学校で読んだ本の実績を保護者とどのように共有していくかを考えていきたい。
- ・「⑦教育相談活動の充実」「⑬児童一人一人の夢や目標に実現に向け、全職員で子供を育てる体制づくり」では、評価が100%となっている。毎月行う教育相談アンケート等に加え生徒指導主任を中心とした校内体制を整えることで、早期発見・早期対応に努めているが、子どもの中には、困ったことを相談できる人や安心できる場所がないと感じている児童も存在している。後期は、「先生、あのね」期間を新たに設け、学級担任以外と話をするきっかけをつくり、全教職員が多くの児童と会話するきっかけを作った。また、毎朝心の健康「こころのちょうし」をタブレットに入力し、養護教諭が集計して不調を訴える児童を見逃さない体制を作った。このことにより、学級担任がこころの不調を訴える児童を朝のうちに把握できるようになった。
- ・「⑧豊かな体験活動の充実」「⑭地域の教育力を生かした教育活動の推進」では、100%肯定的な回答となっている。本校は、1、2年生が地域の障がい者施設のご協力ですつまイモづくり、3年生が梨づくり、5年生が米づくりと、伝統的に地域の支援により豊かな体験活動ができています。本年度は、さらに、5年生が作った米を利用して、千葉県伝統の太巻き寿司を作った。1・2年生がつまイモのつるを利用してリースを作り、昔のあそび教室に参加していただいたお年寄りにプレゼントするなど、発展させた取り組みを行った。
- ・「⑮地域社会の連携・協働による開かれた学校づくりと積極的な情報発信」については、肯定的な評価が100%となっている。学校の様子を、より早くより分かりやすく伝えるよう努めてきたことで保護者への伝達ができている。引き続き、開かれた学校づくりをめざして、積極的な情報発信に努めたい。